

平成30年度 第3回いじめ防止対策委員会 (議事録)

平成31年2月20日(水)
我孫子市教育委員会大会議室
15:00～

- 1 開会 (戸塚センター長)
- 2 会議の公開について … (戸塚センター長)
 - ・傍聴についての確認

3 いじめ防止対策に関する報告および協議

<倉部議長> : 年3回の委員会で、「いじめ問題」という重要なテーマを持つ委員会です。

今回は第2回はいじめアンケートの結果を中心に進めます。野田市の問題もありますが本市としても、他機関との連携が大切であると考えています。貴重なご意見をお願いします。

報告項目として

- (1) 第2回いじめアンケートの集計結果について
- (2) 第2回いじめアンケート調査後の取り組み状況および考察について
- (3) 第2回 Q-U 検査の結果について
- (4) 第40回少年の主張全国大会～わたしの主張2018～受賞作品

について報告させていただいて、ご意見等をお願いします。

(1) 【第2回いじめアンケートの集計結果について】

<戸塚センター長>

① 【内容について】

はじめに、アンケートの内容について。我孫子市のアンケートは無記名で行っている。

我孫子市では、アンケート自体に「秘密を守ります」という文言は書いてないが、いじめられている子どもを守るために、内容については慎重に扱っている。

今回のアンケートでは、今まで確認していなかった「その他についての記述」を学校より報告してもらった。また、パソコンやスマートフォンなどをどのくらいの時間使用しているのかを、調査項目に追加したので、このあと報告する。

② 【認知の推移について】

前回6月と比較し、小学校では8.9%から6.8%と減少している。中学校ではほぼ横ばい状態になっている。学年別に見ていくと、小学校では全ての学年において「いじめられた」と回答した児童が減少している。特に小学5年生が半数に減少した。

学校によって、6月の検査時に学級が落ち着かなかったところがあったが、その後の学校の取り組みで落ち着き、減少してきた。中学校ではわずかに減少しているが、特別支援学級の子どもの数が増加しているのが心配される。

③【集計結果について】

問2の「いじめはどのくらい続いていますか？」の回答で、「約1か月・1か月以上」の割合が、小学校でも少し増加している。一部の児童が長期化している事案もあり心配している。実情としては、いじめ行為が連続して行われているのではなく、指導で一度解決するが、しばらくするとまた嫌なことをされることがあるようだ。

「どんないじめですか？」では、相変わらず「嫌なことを言われる」が多い。

「誰にいじめられていますか？」では「クラスの友だち」が半数以上を占め、日常生活で交流がある中で起きている。

「誰に相談しましたか？」では、約四分の一の子どもが「誰にも相談していない」と回答している。自力で解決できていればいいのだが、相談できない子どもがいないか心配である。引き続き、心の相談員やスクールカウンセラーの存在の周知とともに、学校外でも相談の窓口があることを周知し、一人で抱え込むことのないようにしていきたいと考えている。

「今、誰かをいじめていますか？」では、小中学校とも1回目との比較では減っているが、「いじめをしている」とは回答しにくいのではないかと思われる。いじめていると認識している子が実際にいるということと、いじめている認識がない子がいる。「いじめはいけないこと」とわかっているのにいじめてしまう子に、教師から「いじめは許されないことだよ」という指導だけでは不十分で、「何故いじめをしてしまうのか」を一緒に考えながら、再発防止をしていくことが大切だと考える。

「どんないじめですか？」では、小中とも「嫌なことを言う」が多数を占めている。

「いじめた理由」については、1回目と大きな変化はなかった。

「今いじめられている子がいますか？」では、小学校425名、中学校では41名が「はい」と回答しており、その時「どうしていますか？」では、「やめるように言っている」が多いが、「だまって見ている」と回答した子どもも多くいる。傍観者ではダメだと理解しているが、実際は難しいのだと思う。しかし、身近な誰かに話すことがいじめの早期解決に結びつくことを、粘り強く伝えていかななくてはならないと考える。

11ページには、今回子どもが記述した「その他の記述」も集計した。どんな「いじめか？」では「約束していないのに何日も家に来る」「用事があるのに勝手に家に入ってきて遊ばれてしまう」などと書かれていた。また、場所については「公園やあびっこ」など学校以外の場所もあった。

「誰にいじめられたか」では、保護者はなかったが、兄や姉という回答があった。書いてきた本人にとっては、兄弟といえども一方的にやられているという感覚なのかもしれない。状況や頻度など丁寧に聞く必要がある。今後も、今まで以上に虐待の疑いがある記述が見られた時には、丁寧に聞き取りをして、対応していきたい。

「いじめられている子にどうしているか？」では、「友達に伝えている・相談にのってあげる・先生に伝えている」などがあり、傍観者にならないように行動している子もいる。

④【インターネットや携帯電話についての調査結果について】

小中学校とも、スマートフォンや携帯電話の所持率は、高くなっている。なかでもスマートフォンを持っている小中学生が増えている。小学生で+114名、中学生で+105名であった。使用方法としては、1回目との変化は見られず、ゲームやネット検索が多い。

今回、パソコン・タブレット端末・ゲーム機・スマートフォン・携帯電話などの使用時間の調査を加えた。小学生では14%（75名）の子が、4時間以上と回答し、中学生ではさらに多くなる。男女別では、男子の方が長時間使用している。長時間使用しているから依存症になるとは言えないが、長時間使用の影響等について考えていきたい。

また、その使用方法など指導すべき課題があると考えている。

使用時間については、一番使う日や合計・平均ではなく、「一週間の中で、一日の使用時間を考え、その割合が多い日数の時間」（4時間以上使用が週4日あれば4時間以上）を記入してもらったが、聞き方によっても違いが出てくると思うので、次に生かしたい。

(2) 【いじめアンケート調査後の取り組み状況調査結果について】

まず追跡調査結果についてです。11月の第2回アンケートで「いじめられている」と回答した小学生は420人いたが、2月4日現在で未解消が6件だった。中学生は「いじめられている」と回答した生徒は37人で、2月4日現在で未解消が5件である。いずれも2月15日現在では解消しているが、今も経過観察している。

続いて、アンケートを基にした考察だが、

*いじめの期間について、小中学校とも「1か月以上」と回答している割合が高くなっていることから、長期化する傾向にある。自分のまわりにいじめられている子がいることがわかっているのに、黙って見ている児童生徒が存在している。自分がいじめられたらと考えると、なかなか止めることはできないと思うが、勇気を持って大人に助けを求めよう指導を続けたい。

*いじめを受けている場所は、教室が多い。以前から言われているが「どの子どもにも、どの学校にも起こりうること」としてとらえることが大事であり、小さなことでも違和感があったときには、教師同士で話題にすることが、早期発見につながると思う。

*誰にも相談していない児童生徒に対して、相談場所の周知とともに、SOSの出し方の指導も、引き続き行っていく必要がある。

*いじめが起きた時に、早期発見・早期対応をすることが大事であるが、それ以上に未然防止することが大切であり、各学校で様々な取り組みを行ってきているが、「何故いじめをしてはいけないのか」ということを児童生徒に考えさせながら、引き続き、いじめが起こらない学校づくりをしていかなければと考える。

(3) 【第2回Q-U検査の結果について】

<戸塚センター長>：結果データの表は、5つの群に分類されている。

①「学級生活満足群」について

小学校ではすべての学年が、6月の第1回目に比べて増加している。いじめが起きにくくなっていることが考えられる。中学校では減少しているが、全国平均と比較すると高い数値である。

②「侵害行為満足群」と「学級生活不満足群」について

いじめに関係するのは特にこの二つの群である。「侵害行為満足群」は、「友達に嫌なこ

とをされる」「遊びの仲間に入れてもらえない」「無視される」などと感じている割合。

「学級生活不満足群」は、それに加えて自己肯定感の低い子ども達であり、いじめや悪ふざけを受けている可能性が高い。小学校においては、「侵害行為満足群」も「学級生活不満足群」もほとんど減少している。中学校では増加しているものの全国平均と比較すると、小中学校とも低い数値になっている。

③「要支援群」について

この群に属する子ども達は、いじめや悪ふざけを受けており、不適応になっている可能性が高い子ども達である。学級の中で自分の居場所を見いだせず、不登校になる可能性も高いので、いじめアンケートも見ながら対応しなければいけない子ども達である。

<佐藤主事>：いじめ対策項目の比較について

この表については、昨年度から作成している。表の見方だが、Q-U 検査の中から「いじめ対策項目」を抽出している。表の上部をご覧ください。30年1回目と2回目を載せてあり、我孫子市と全国の比較である。小学4年生では全国比で、大きく望ましい方向にある。

また、2回目の右側の欄には、1回目との比較を載せてある。「嫌なことを言われたり、からかわれて辛い」という項目で、「とてもそう思う」につけた子が、1.7%減ということである。

今回の検査でも、4年・5年・6年とも我孫子市は全国比で、大きく望ましい方向にあるという結果である。中学2年・3年も同様である。

<戸塚センター長>：最後に24ページに載せてあるのは、第40回少年の主張全国大会で内閣総理大臣賞を受賞した作品です。中学3年生の女の子が自分のいじめ体験をもとに、いじめをしている人、いじめを見ている人、いじめられている人、それぞれにメッセージを出している。私自身いろいろ考えさせられ、委員の皆さんにぜひ読んでいただきたく載せた。

4. 意見交換

<倉部議長>：それでは、只今、事務局より報告がありました件につきまして、ご意見をいただきたいと思えます。

ただ今の報告にもあったように、事務局（指導課）ではアンケートやQ-U 検査を基に子どもの現状を丁寧に聞き取り、実際に子どもの様子を見て把握し、対応しています。このことを続けることで少しでも予防していければと考えています。また、「いじめが1か月以上続いている」件については大変気がかりですが、学校と連携をとりその内容についてみています。気にかかることがあればすぐに確認しています。重大事態にならないよう一人の判断ではなく、慎重に取り組んでいきたいと思えます。何かご質問ご意見がありましたらお願いします。

<三澤委員>：報告でもあったように、担当主事の活動は効果的であると捉えています。しかし、丁寧に活動を重ねると担当主事さんの役割が子どもたちにわかってしまい、担当主事が来ると「いじめのことで来ている」と感じ取られ、いじめ行動をやめたり、掲示板のいたずらを消してしまったりするのはと心配しています。

資料の「誰に相談したか？」と記述がある場合、相談後どうなったのかの把握をした方

がよいと思います。その場合個人の判断ではなく、組織としての判断・まとめをしっかりとやっていただきたい。また、「いじめた理由」の回答に「楽しいから」が小中学校とも数名いることが気になります。いなくなるように考えていかなければいけないと思います。

＜倉部議長＞：ご意見ありがとうございます。アンケート結果の分析をしていく中で、学校内のことであれば把握はしやすいのですが、学校外でのことの把握は難しいところがあります。しかし、出来る限りの把握・対応はしていかなければならないと思います。

＜阿部委員＞：Q-U 検査のいじめ対策項目の比較ですが、中学1年・2年の表の1回目との比較で、「まったくそう思わない」が減少しています。この辺の分析について何かあればお願いします。

＜佐藤主事＞：学校では、些細な事での言いあらそいが最近多いと感じているようです。何気ない言葉で気持ちが傷ついてしまったり、嫌な気持ちになったりして、「全くそう思わない」と言い切れなくなってきた子供が増えていると考えています。事務局としてもいじめ対策項目で「とてもそう思う」が減っているからといって安心しているわけではないです。また特別にいじめの雰囲気広がっているとは感じていませんが、個別により丁寧に対応していく必要があると考えています。

＜大島委員＞：学校ではいじめの早期発見するツールとして、Q-U 検査とアンケートを活用しています。両方ともだいたい6月、11月に実施していますが、「全くそう思わない」についての回答が増えているのは時期的なことも考えられます。11月にもなると学校生活にも慣れ、ちょっとしたからかいなどもあり、1回でもあれば「全くそう思わない」には付けなくなります。また、Q-U 検査とアンケートの違いは記名するかしないかで、Q-U 検査は記名しますので、全生徒がどう記入したかすぐに分かります。担任は「からかわれた…」と回答があれば面談し、どんなことがあったのか確認し、対応しています。

＜倉部議長＞：二つの違いを明確にしてもらいましたが、把握すべき内容や子どもにとって記入しやすいなど、双方を有効に活用していくことが大切であると思います。

＜城野委員＞：アンケートで、「いじめられていますか？」と「いじめられている子がいますか？」がほぼ同数という結果ですが、本来であれば「いじめられている子がいますか？」が多数になるはずだと思います。大人のハラスメントが問題になっていますが、「どんなことが嫌な事なのか」などを各クラスで啓蒙、指導していくことが効果的ではないでしょうか。

＜倉部議長＞：ご意見の通り、学校の取り組みの中で当然していると思います。児童・生徒会中心に「いじめゼロ」を目指すということで標語などを作成して取り組んでいる学校もあります。意識を高めていくことは大切なことだと思います。また、いじめをゼロにするのは難しいがゼロに近づける取り組みをしていく必要があります。いじめによって、「相手がどれだけ傷つくか」「どのような影響があるのか」など、学校現場では今まで以上に取り組んで欲しいです。それらを踏まえ、指導課でも研修会の充実や子供たちへの意識付け、児童会・生徒会を巻き込んで自ら変えていく姿勢を育てる取り組み等を進めて下さい。

＜久米委員＞：城野委員の意見に同感です。さらに「誰かをいじめていますか？」では55名しかい

ない。「いじめられている子がいる」では425名で差が大きく、本人の自覚がないのではないかと思います。

「誰にも相談していない」ということは、一番怖いことだと思います。そこで学年ごとによる分析も必要です。低学年では、誰に相談していいかわからないとか、高学年では怖がっているなど要因について気を付けていくことが必要です。

また、いじめの理由として「楽しいから」の回答は大きな問題です。さらに「気晴らしで」という回答もあり、いじめる側の精神的なものを晴らそうとしていることも問題です。高学年になると受験のストレスなどもあるのかと思います。

Q-U 検査の「7：嫌なことを言われたり、からかわれてつらい」「9：クラスにいたくないと思うことがある」の項目は、周りからは見えません。アンケートの結果分析にあたって、こういう点にどのように寄り添ってあげられるかを考えていかれると良いのではないのでしょうか。

「どうしてマスクをしているのか？」について研究をした大学生がいました。その結果の中で、「自分の表情を消したいから」という理由があり、「いじめられてる学生」や「抑圧されている学生」だけでなく、学業優秀な学生も「自分ができていることを知られたくないから」という回答もありました。マスクをつけている理由にも深い理由があるのだと知りました。小中学校でも自分のクラスで、風邪をひいていないのにマスクをつけている子や風邪が流行っているわけでもないのにマスクをしている子などに目を向けることも大切だと思います。

<倉部議長>：最後の話はとても示唆的でありありがとうございます。そういう視点に気づけるのは素晴らしいと思います。いろいろな見方に、どう気づけるかが大切です。

いじめアンケートでは認知度が高いかどうか話題になりますが、我孫子市では認知度が高いことを前提で、まず「いじめを疑う」。そして少しでも心配があれば担当主事が訪問して、学校と連携し、「こういうことなんだ」と納得できればいいわけです。

<櫻井委員>：この会議とズレますが、虐待の問題は我孫子市ではどうですか？

<倉部議長>：虐待問題は市としての対応が基本ですが、委員会や学校で発見した時にはすぐに通報することになっています。連携はできていると思います。村田委員からも「弁護士として法律事務所として協力します」という心強い言葉をいただいています。

<鈴木委員>：アンケートの「嫌なことを言われる」については、本人の精神的な苦痛であり、それをどう拾っていくかが大切で、難しいことだが学校では勝負ポイントでもあると捉えています。小2のいじめ裁判で、加害者の方は「蹴ったけど遊びだった」被害者は「とても嫌だった」ということがありましたが、「遊びはいじめの原因となる」といっています。今後も校内の連携、他機関との連携を考えていきたいと思っています。

<丸 委員>：野田市の事件がありましたが、同様なことが起きてはいけませんが、起きる可能性はあるのだと考え、学校・委員会でどう対応するか話し合ってもらっています。新聞等で「いけなかった点」について報道されましたが、委員会では校長会に子ども相談課長に来ていただいて、「心配な点があったらすぐに連絡ください」と話をもらいました。内容については学校長から職員に伝達されていますが、学校内で温度差があってはいけないし、職員一人一人が対応しないといけないことを徹底したいと思っています。

一方的な保護者には複数で対応することが必要であり、いざとなれば警察に連絡することや自分の学校だけでの解決はありえないと捉え、関係機関と連携をとることが大切です。

いじめアンケートでは、本市は「秘密にします」は記載されていません。しかし個人情報ですから慎重に扱うのは当然と考えています。

<倉部議長>：警察署長からも「ためらわずに110番してください」と言われています。

いじめも含め「ためらわない」対応をしていくことが大切であり、その体制はできていると考えています。他に何かありますか？

<城野委員>：いじめアンケートで、携帯・スマートフォンで、「保護者がフィルターをかけているか」という質問項目を付け加えたらどうでしょう。

<戸塚センター長>：アンケートや Q-U 検査でのアンケート項目や分析の仕方等、新たなご意見がありました。それらを参考にして、来年度に向けていきたいと思えます。

5. その他

6. 諸連絡をお願いします。

<戸塚センター長>：来年度の日程について。

第一回 6月7日 第二回 10月18日 第3回 2月20日

7. 閉会 (戸塚センター長)